

若年層におけるスギ花粉エキス原末 (シダキュア®) 服用状況の実際とその効果

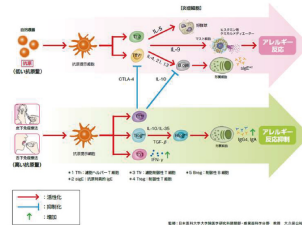
株式会社あおい調剤グループ

有田 明弘・湯川 卓哉・加藤 謙

舌下免疫療法 シダキュア®

鳥居薬品株式会社
ホームページより抜粋

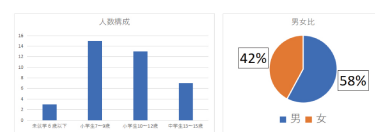
- 自然曝露により体内に取り込まれた抗原（低い抗原量）は、抗原提示細胞に捕捉され、その結果、Th2細胞の分化・増殖、炎症細胞の活性化等アレルギー反応が引き起こされる。
- 舌下免疫療法では投与した抗原（高い抗原量）が口腔粘膜下の樹状細胞（抗原提示細胞）に捕捉され、その結果、制御性（Treg）の誘導及びTh1細胞の増加、Th2細胞増加の抑制、抗原特異的IgG及びIgAの増加により、アレルギー反応を抑制するものと推測されている。



スギ花粉症の現状

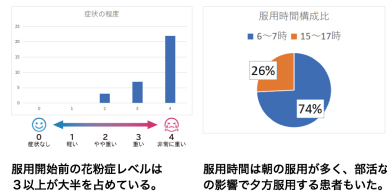
- スギ花粉症の有病率は、2019年には40%弱、3人に1人がスギ花粉症と推定されている。
- 若年層のスギ花粉症の推定有病率は増加傾向にある。2016年の推定有病率（花粉症患者実態調査より）
0～14歳 40%、 15～29歳 61.6%
30～44歳 57.0%、 45～59歳 57.0%、 60歳以上 37.4%
- 患者満足度が高い新規の根治的治療開発が急務とされており、その一つとして、アレルギー免疫療法（減感作療法）があげられる。近年、重篤な副作用が少なく、頻繁に医療機関を受診する必要のない舌下免疫療法が実用化されている。

調査対象の構成

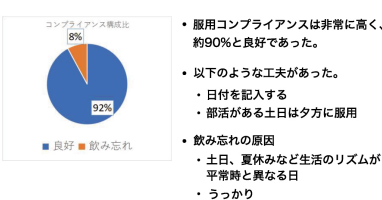


令和4年5月～令和4年12月中に舌下免疫療法の新規治療開始となった15歳以下38名を対象として、アンケート調査を実施した。
7～9歳が最も多く全体の40%を占めた。
男女構成比は男性が約60%と若干の優勢を示した。

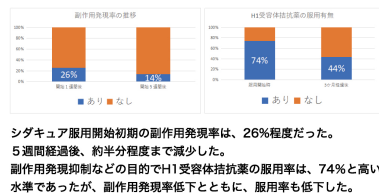
服用開始前の花粉症症状の程度と 服用時間構成比



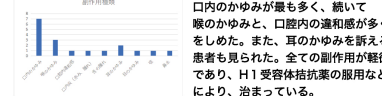
服用コンプライアンス



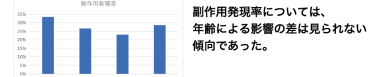
シダキュア服用時の副作用の有無と H1 受容体拮抗薬の服用有無の推移



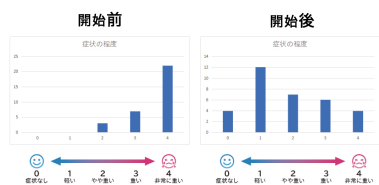
副作用の種類



年齢別副作用発現率



服用開始前後の症状の程度の変化



まとめ

- 調査対象：15歳以下38名
- 服用前後の症状の程度（0～4の5段階）
 - 服用前：平均3.6
 - 服用後：平均1.8
- 副作用発現率
 - 開始1週間後：26%
 - 開始5週間後：14%
- 服用コンプライアンス
 - 飲み忘れ無し：92%
- 花粉症症状の程度について、ヒアリング結果からシダキュアの服用開始1年未満の服用でも、症状の緩和が明らかとなった。
- 副作用については服用開始直後は約4人に1人の割合で発生し、そのほとんどが口腔内違和感を訴えるものであった。
- 5週間後の副作用発生率は14%に低減しており、H1受容体拮抗薬により副作用のほとんどを抑えることができることを示唆する結果を得た。
- 若年層の服用コンプライアンスは非常に良好なものであり、保護者の協力が大きく影響していた。

考察

- 今回若年層38名を対象として、シダキュアの効果・副作用・服用コンプライアンスなどを調査した。
- 高い服用コンプライアンスであったため、信頼性の高いデータが得られたと推測する。
- 服用開始から1年未満の調査であったが、症状の緩和を訴える患者が多く、その効果を実感することができた。
- 副作用は軽微であり、服用コンプライアンスへの影響が少ないことが、本薬剤の有用性を示していると考ええる。
- 規則正しい生活リズムをおくりやすい若年層の服用コンプライアンスが高かったことから、成人においても生活リズムの聴取により個々に対応した服薬指導を行うことが有用であると考ええる。

